

セミナーテーマ 夫婦関係のきずなと子どものこころ

コース① 発達障害のある子どもの育ちと夫婦の役割～気持ちの理解と調節を中心に～

山根隆宏 准教授（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）



発達障害のある子どもの育ちにとって親の役割は小さくはないと言えます。その中で、親はさまざまな悩みや困難にぶつかることも多いのではないのでしょうか。今回は特に子どもの気持ちの理解や調節について、夫婦で子どもの育ちをどう考えていけばよいのか、私の研究もご紹介しながら、一緒に考えてみたいと思います。これでよいのだろうか？と悩むことのも多い子育ての中で、何かヒントと言えるようなものが見つければ幸いです。

コース② 夫婦の成り立ちと発達～子どもから見た親夫婦、子どもにとっての結婚前の親との対話

吉田圭吾 教授（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）



愛し合って結ばれて永遠の愛を誓い合い、「末長く幸せだったとさ」で終わるお伽話のその後何が起こるのが夫婦の成り立ちと発達です。お互いまだ期待している時は喧嘩もします。信頼の糸が切れると偽りの平穏が訪れます。夫婦の秘密と、その秘密を知らずに育つ子ども、そして秘密が子どもに解き明かされる時に、自分の悩みの背景が啓かれます。1人の人間としての成長がずれると他方が置いていかれます。子どもの問題に夫婦の隠れた秘密が漏れ出します。離婚が新たな再出発になる時もあります。当日は、夫婦の愛の形と、親子の愛の形について語り合しましょう。

コース③ イメージでつながる夫婦と子どものこころ

伊藤俊樹 准教授（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）



私はカウンセラーとして、言葉だけではなくイメージというものも重視しています。人と人の心がつながる場合も、そこにはイメージというものが重要なファクターになっています。私の授業では、夫婦がいかに関わり合いを通じてつながっているのか、夫婦と特に思春期の子供がいかに関わり合いを通じてつながっているのかについて、お話したいと思っています。

コース④ 夫婦で支える思春期の傷つきやすい子どもたち

相澤直樹 准教授（神戸大学大学院人間発達環境学研究科）



児童期や思春期に傷つきやすさや不安を抱える子どもたちは決して少なくありません。そのような子どもは学校や家庭でもあまり目立ちませんが、実は不登校・引きこもり・対人不安などの心のトラブルに結びつくことがあります。今回は、そのような傷つきやすい子どもの心の姿を理解した上で、夫婦が協力してどのように支えていけるのかについて考えて生きたいと思います。もちろん正しい答えを見つけ出す事は難しいかもしれませんが、ご夫婦と一緒に考えるヒントになればと思います。

参加者へのお願い

- 会場には、子どもたちを遊ばせるスペースはありますが、託児はおこないません。お子様については、各保護者の方が責任をもって見ていただくようお願い致します。
- 各コース定員（先着 25 名）に達した場合には、受付を終了いたします。受講可能な方には、追ってメールにてご連絡差し上げます。また、キャンセルの場合にはできるだけ早めにご連絡ください。

